昭和大学藤が丘病院　昭和大学藤が丘ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院

病院だより

2018年9・10月
第324号

病院だより第324号（2018年9・10月号）
発行者　昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院
発行責任者　藤が丘病院長　髙橋　寛
編集責任者　広報委員長　原田　浩史
〒227-8501　横浜市青葉区藤が丘1-30
TEL　045-971-1151

藤が丘病院災害医療派遣チーム（DMAT、YMAT）について

昭和大学藤が丘病院救急医学科　准教授　佐々木　純
（日本DMAT隊員、統括DMAT、YMAT隊員）

東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震など近年多くの地震災害や風水災害が起こっています。いつどこで大きな災害が起こるかもしれません。

当院は災害拠点病院です。院内、院外の災害における中心的な立場となり、活動しています。中でも、近年の大規模災害や、局所災害に素早く現場に向かい、現地での医療救護活動を行う、チームを作っています。

日本DMAT(Disaster Medical Assistance Team)は地震、風水害など大規模災害において、現地の医療拠点がダメージを受けたときに外から支援に行くチームです。日本全国広域での活動を行っています。当院からの出動はまだありませんが、近年の地震、風水害に日本各地で全国のチームが活動しています。

YMAT(横浜救急医療チーム)は横浜市消防局と連携し、列車災害、多数傷病者が見込まれる事故などに、すばやく出動し、救急隊とともに医療活動を行うチームです。救急司令センターからの依頼に5分から10分で出動します。実際には東名高速道路での事故、田園都市線やJR横浜線での事故、作業中の救出困難な傷病者への医療介入のため、現場に出動しています。

当院ではDMAT、YMATを編成して、災害現場に素早く出動し、医療活動ができるようにしています。また院内でも、防災・災害訓練を通して、院内の災害対応についての訓練の中心的な役割を果たし、外部からのDMATの受け入れの連携をとる役割も担っています。

近年では大規模イベントにおけるテロや局地災害などの危険もあります。神奈川県、横浜市、消防、警察、自衛隊などとの訓練を行っています。特に来年のラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピックに備えています。今後とも災害に備えて活動していきますのでよろしくお願いいたします。

円滑な退院支援のすすめ
～チーム一丸となって～

総合サポートセンター
入退院支援部門　齋藤　佳織

平成30年度の診療報酬改定で入退院支援の推進が提案されました。藤が丘病院総合サポートセンターでも、4月からスタッフの充実、運用基準の見直しを行い、入退院システムを再整備しました。

当院の総合サポートセンターは、患者サポートセンター（検査説明・受診相談・入院案内）：看護師4名と、総合相談センター（入院患者の在宅・転院の療養調整）：メディカルソーシャルワーカー（MSW）3名、入退院調整看護師（DNs）7名、がん相談専従1名で活動しています。

退院支援は病棟看護師（退院調整リンクナース）と入退院調整看護師が情報を共有して、退院支援を必要とする患者さんを早期にスクリーニングしています。主治医、多職種と退院後の医療管理や看護・介護の必要性をアセスメントし、患者さんが自分の病気や障害を理解して「望む生活の場」に移行できるよう支援します。総合相談センターのメディカルソーシャルワーカーは、病棟での支援プロセスを理解し、退院後、患者さんに利用可能な社会保障制度や社会資源を適切に活用できるようにマネジメントをします。

日々の活動を通して、退院支援スクリーニングは100%の実績があり、支援が必要な患者さんはキャッチできています。しかし、患者さん・御家族へのアプローチ不足、医師への治療方針の確認不足・多職種との情報交換が弱いことで調整が遅延しているケースもあります。

退院支援は各職種・部署それぞれの立場で役割を発揮することで円滑に推進できると考えます。

診療科紹介No.4

進化する脳神経血管内治療

昭和大学藤が丘病院　脳神経外科

早いもので和歌山労災病院から昭和大学藤が丘病院に異動して4年が経ちました。研修医時代を過ごした大阪の国立循環器病センター、留学していたサンフランシスコのUCSF以外に和歌山を離れるのは初めてでしたが、こちらの生活にも完全に慣れました。当初、和歌山労災病院で一緒に働いていた4名と、神奈川出身で和歌山医大卒業の梅嵜先生と5名の集団で異動してきました。皆さん血管内治療のエキスパートに成長し、松崎先生は大阪に戻り、河野先生は埼玉でAIのベンチャーを立ち上げるべく努力しています。その代わりに、徳島大学から西山先生が、奈良医大から朴先生がチームに参加してくれました。現在のスタッフは昭和大学出身者を含め和歌山、徳島、奈良、産業医大などの複数の大学出身者で構成されています。

〈診療体制〉

昭和大学すべての関連施設(大学病院：奥村先生、北部病院：本年7月より山家先生、江東豊洲病院)：神谷先生、藤が丘病院)で脳神経血管内治療ができるようになっており、脳神経血管内治療学会の専門医が勤務しています。おそらく、グループ全体で年間400例近い患者さんを治療し、国内でもトップクラスの治療経験を持つグループに成長していると思います。

〈特徴的な診療領域〉

脳神経血管内治療の進歩はめざましいものがあり、脳動脈瘤に対してはステント併用コイル塞栓術のみでなく、フローダイバーターというストラットの小さな(網目の小さい)ステントを留置するだけで大型脳動脈瘤が治療できるようになっています。残念ながら、施行できる施設は神奈川では藤が丘病院のみとなっていますが、今後各施設で治療できるようになるとともに適応の幅が広がって来るものと思います。脳神経血管内治療の分野は脳神経外科の中でも急速に進化している領域で、今後治療のニーズはさらに高まって来るものと思われます。コメディカルのスタッフに御協力いただき、さらに昭和の脳神経血管内治療を充実させていきたいと考えています。御協力、御支援よろしくお願いいたします。

（藤が丘病院脳神経外科　　寺田　友昭）

新人からのメッセージ

研修医になって

藤が丘病院　研修医　　佐々木　郁哉

私は今年の４月に岡山から、この藤が丘病院へ入職しました。最初は慣れない遠い土地や見知らぬ人に戸惑うことが多くありましたが、周囲の助けを借りながら半年間なんとか過ごしてきました。時間が経つのは早くて、気がつけばもうすでに半年間経ちました。私なりに悪戦苦闘していますが、未だに仕事には慣れない部分が多くあります。私は現在、救命救急センターで研修をさせていただいております。救命救急センターでは、忙しい日々を送っていますが、1つ1つ自分のペースでできる仕事を増やそうと頑張っています。職場では辛いこともありますが、同じ研修医１年目の仲間や、上級医の助けを借りながら、乗り越えていきたいと思います。

新人からのメッセージ

入職後、半年が経過しました

藤が丘病院手術室　看護師　　岩井　真理

桜が舞う季節に、緊張と不安で押しつぶされそうになった入職式、あの日から早くも半年が過ぎました。希望の手術室に配属され、嬉しさ半面、きちんと業務できるのか大きな不安もありました。今でも、新しい器械や業務を覚えることで、精いっぱいです。しかし、医師に器械をスムーズに渡せたときや、先輩看護師に褒めてもらったときには達成感があります。手術室では、様々な職種がチームとなって治療にあたっています。皆さんからのサポートを受けながら、看護師として日々、充実した毎日を送っています。いずれは、脳外科や心臓外科の手術にも対応できる看護師に成長できるよう、これからも頑張りたいと思います。

新人からのメッセージ

打たれ時

ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ
言語聴覚士　　松田　祐貴

入職して約半年が経過しました。私の所属する言語聴覚療法室は総勢９人おりますが、男性は私１人。入職当初は不安でしたが、皆さんが良くしてくださり、お陰様でその心配も杞憂に終わりました(たまにビクッとすることはありますが)。さて、入職してからこれまで、先輩方から業務や技術を学び、仕事にも段々と慣れてまいりました。勿論、慣れてきた

時はミスを起こし易いということもありますので、褌を締め直し、行いを反芻する毎日を過ごしています。反芻すればする程、自分の未熟さに時々嫌になることもありますが、それ以上に成長を感じております。鉄は熱いうちに打てという諺がありますが、今がまさに熱い時期。壊れないよう、しっかりと打たれたいと思います。

新人からのメッセージ

入職して半年が経過 ‥‥振り返りと今後の展望について

藤が丘病院放射線技術部　　山下　豪

4 月から新入職員として、昭和大学藤が丘病院に勤務し半年が経ちました。通常の放射線検査業務に加え、一刻を争う救急医療の現場で診療放射線技師として、働き続けられるだろうかと思い悩んだ時期がありました。その際に、いつも優しく厳しく指導して下さる先輩方による励ましと、一緒に成長し刺激し合える同期に支えられ、半年間働き続けることができました。

藤が丘病院の一員となり、最先端の知識・技術を学ぶことができるこの環境に感謝しております。未熟で至らない点も多々ありますが、やる気と元気と情熱を持ち、患者さんに安心して検査を受けていただけるように今後も頑張っていきますので、よろしくお願い致します。

新人からのメッセージ

入職後半年が経過して

藤が丘病院医療課　　中澤　尚起

夏も終わり、早いもので私が外来請求係に配属されてから半年が経ちます。振り返ってみると、目の前の業務を日々全力でこなすのに精一杯で多くのミスをしてきましたが、少しずつですが業務の流れや全体像が見え成長できたのではないかと思います。申し訳ないことに私が医療に深く関わるのは、ランニング時、太りすぎていたが為に下り坂で曲がりきれず壁に衝突して肋骨を折り救急搬送されたとき以来です。配属当初は右も左もわかりませんでしたが、そんな私を職場の方々は時に優しく、時に厳しく指導してくださり多くの事を学ばせて頂きました。患者さんからの問い合わせに対し、上司と患者さんの往復しかできなかった私も今はある程度の事であれば一人で対応出来るようになりました。しかし、まだまだ一人前と呼ぶには程遠く、学ぶべき事が多くあります。来月には新人が入って来るとのことで今までの新人という傘から出なくてはなりません。社会人として、医療人として、一刻もはやく一人前になるよう一意専心努力していきたいと思います。

ビッグレスキューかながわに参加しました

平成 30 年 8 月 26 日(日)、神奈川県主催のビッグレスキューかながわ(平成 30 年度神奈川県・海老名市合同総合防災訓練)が開催され、藤が丘病院の DMAT も参加しました。当日は、海老名市の県立相模三川公園や厚木市の厚木市立病院など各地で訓練が実施され、消防や警察、自衛隊、在日米軍など 100 を超える機関が参加しました。その中で、藤が丘病院 DMAT 隊は災害拠点病院である厚木市立病院の支援に入り、DMAT 活動拠点本部の立ち上げ、近隣の病院の被災状況確認や患者搬送手段の確保などの訓練を行いました。厚木には厚木基地があり、災害が起きた際には必ず重要な役割を担う地域となります。そのため、厚木での訓練を経験できたことは非常に有意義なものであったと思います。

（藤が丘病院管理課　　小泉　春樹）

合同ワークショップが開催されました

平成 30 年 9 月 7 日(金)～8 日(土)の 2 日間にわたり、オンワード総合研究所にて藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院合同ワークショップが開催されました。各グループは、医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・事務員の多職種で構成されており、終始和やかな雰囲気の中、部門横断的な討議が行われました。また、1 日目終了後には懇親会が行われ、普段はなかなか話すことのな

い職種の方や、病院幹部と直接意見交換を行う良い機会となりました。

2 日目には、「問題点の解決策」について、内容を充実させた具体的実現策の討議が行われました。今後、報告会に向けて、各グループのリーダーを中心に活動を進めていく予定です。

（藤が丘管理課　丸山　美由紀）

自衛消防隊区訓練会　最優秀賞

藤が丘病院では、消火栓の使い方を周知させるために、毎年各部署から人選して自衛消防隊を結成し、訓練を行っています。9 月になると青葉区自衛消防隊消防操法技術訓練会が催され、様々な事業所から自衛消防隊が集まり、4 人で直径 40 ㎜のホースを 2 本延ばし消火箱から 35m 先の

標的を倒す正確さと速さを競います。そして、各部門で一位になったチームが横浜市の訓練会へと駒を進めることができます。平成 30 年度の訓練会は 9 月 10 日(月)に青葉自動車学校で開催されました。強豪が揃う中、藤が丘病院も参加し、屋内消火栓操法Ⅰの部(女性)にて最優秀賞となり、市の訓練会への出場権を得ました。10 月 25 日(木)に開催される市の訓練会では、青葉区の代表として力を尽くしてまいります。

（藤が丘管理課　山田　大暉）

トライアスロン大会に医療スタッフとして参加

9 月 30 日(日)、八景島シーパラダイスで行われた第 9 回横浜シーサイドトライアスロン大会に、藤が丘病院から医師 1 名、看護師2名が医療スタッフとして参加しました。台風が接近していたため競技距離が短縮される措置がとられたり、会場待機予定であった救急車が待機できなくなったりと、現場

での対応がより一層求められる状況となりました。私達が担当したスイムエリアでは過去に死亡例が報告されており、競技開始前に医療スタッフ間と救助を行うライフセーバーと共に、用意された物品、重症例への搬送・対応方法などを確認しました。当日は擦り傷や呼吸困難感を訴える方が数名受診され、消毒処置や呼吸状態の確認を行いましたが、大きな事故もなく職務を終えることができました。院内とは異なり、医療機器が揃わない現場で行える医療処置を考えるきっかけとなりました。

（藤が丘病院救命救急センター　看護師　國井　悠里）

診療統計　　２０１８年８月・９月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2018 年 8 月	2018 年 9 月	2018 年 8 月	2018 年 9 月
外来患者数	29,859 人（1,148.4 人）	26,018 人（1131.2 人）	4,476 人（172.2 人）	3,974 人（172.8 人）
入院患者数	16,598 人　(535.4 人)	15,289 人（509.6 人）	5,459 人（176.1 人）	5,059 人（168.6 人）
紹介率	78.1%	82.9%	64.1%	70.8%
逆紹介率	71.8%	68.4%	81.5%	74.6%

≪広報委員会委員≫
原田　浩史　池田　裕一　佐々木　春明　市川　度　小岩　文彦　川手　信行
出川　美幸　角田　博子　佐藤　由紀　岩城　馨　長沼　美代子　下田　遥菜
岡部　圭吾　大塚　凌　和田　洋一　（順不同）